

H27.8.3
平成27年度第1回
IR実務担当者連絡会
於:立命館大学
大阪いばらきキャンパス

学生の成績の推移と就職先の データセットについて

茨城大学 大学戦略・IR室

(IIRP: Office of Institutional Research and Planning)

畠田 敏行

はじめに

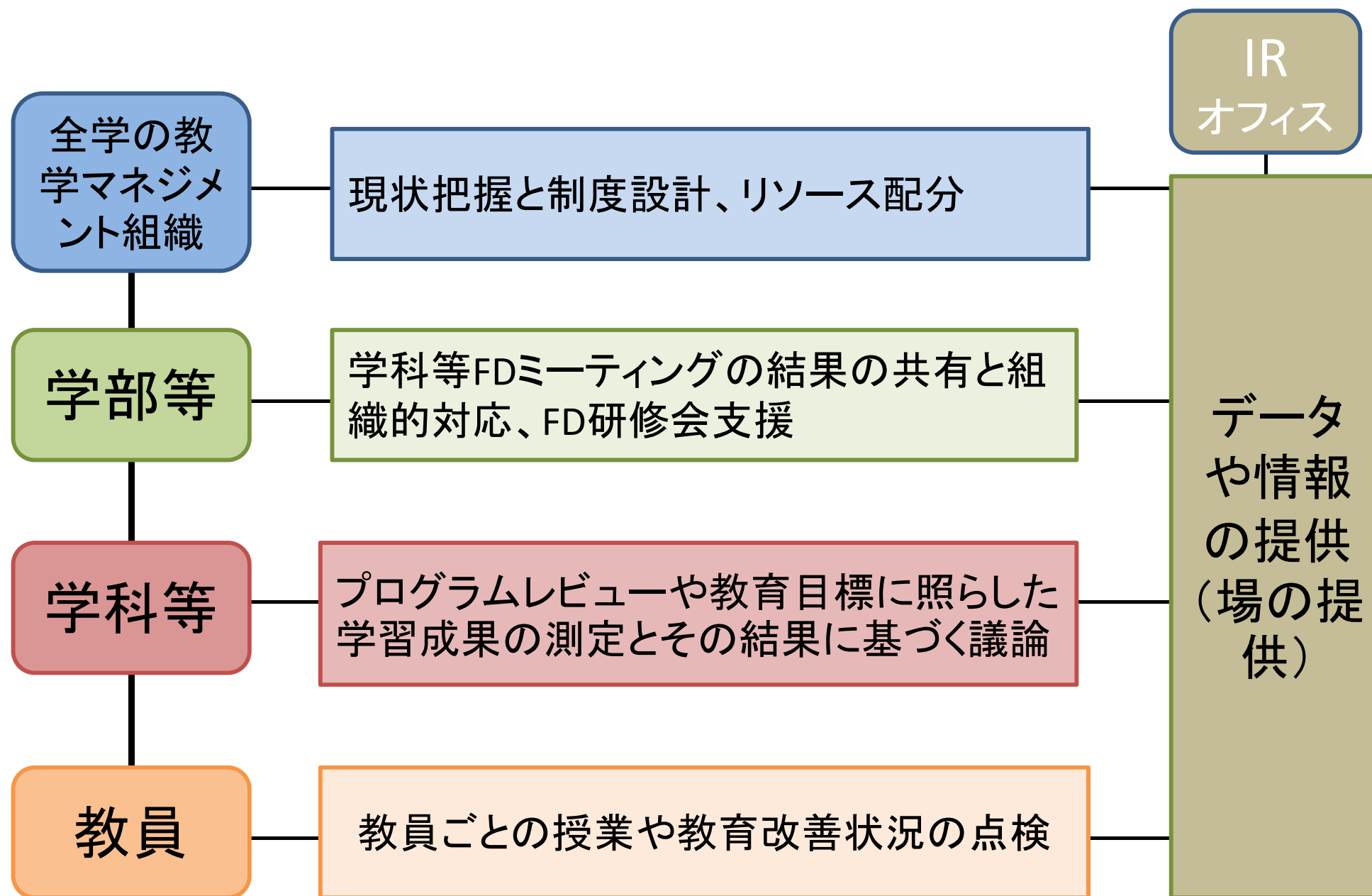
- IRオフィスは、IR業務とは1)必要な時に、必要な情報を、必要とする依頼者に提供する業務、2)そのためのデータの情報への変換業務である。
- IRの定着には、継続的な情報の消費先の確保が不可欠である。
- 単発の仕事をたくさん行うより、定例業務化してシステム化(自動化)できれば便利である。(アドホック→ルーチンへの転換)
- 現在、内部質保証を行うことが求められており、IRとしては、ある意味チャンス。

内部質保証とは

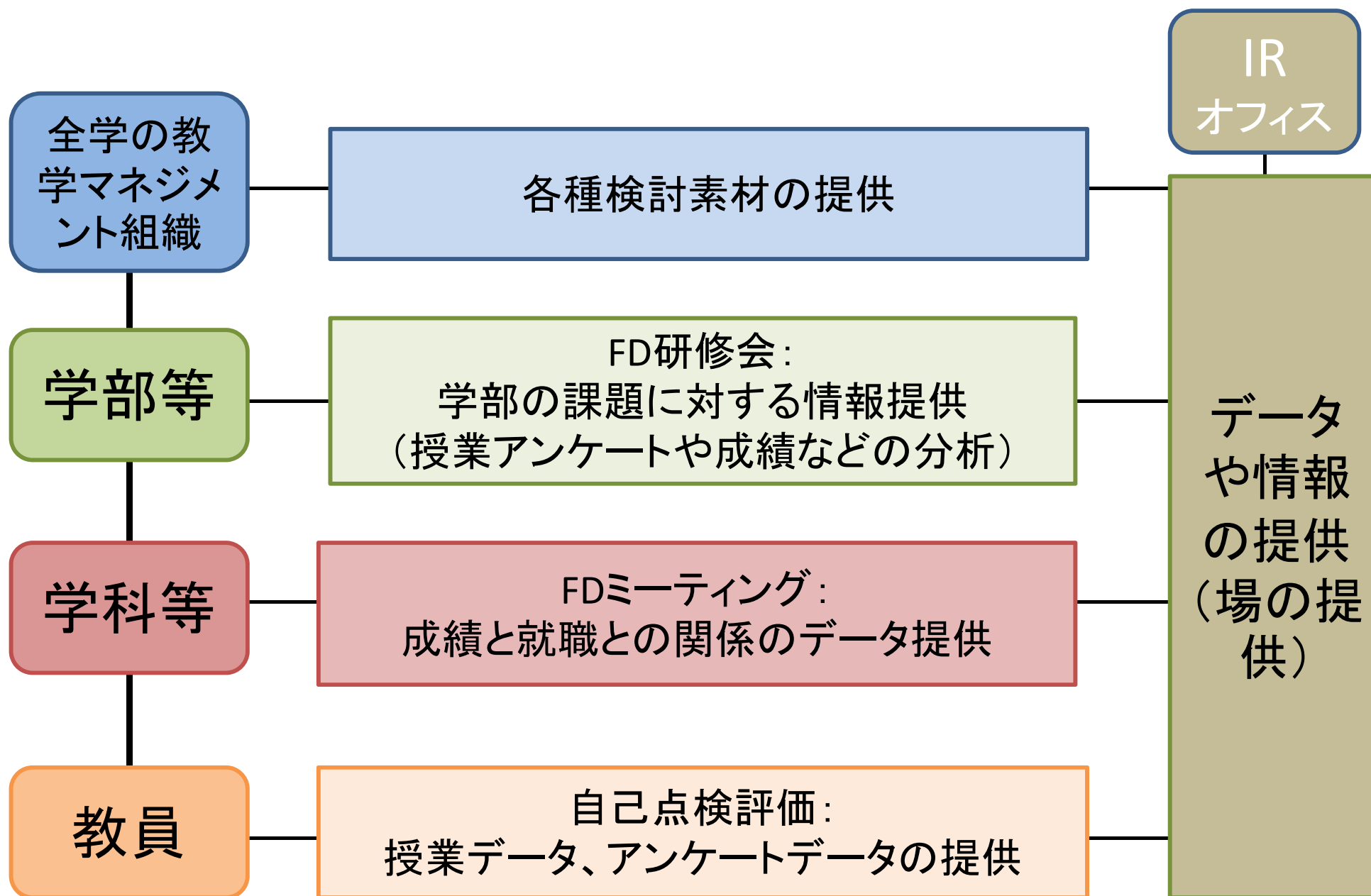
「高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、これによって、その質を自ら保証すること」
(大学評価・学位授与機構『高等教育に関する質保証関係用語集第三版』)

- 組織的に継続的な自己点検評価(目標に照らした現状把握)を実施し、改善を図る。≡ 教学マネジメント体制の構築(→ Institutional Effectiveness)。
- 規則や方針を明確に定め、各階層ごとの責任と権限を設定しなくては動かない。
- それをどのように支援するか。

4階層での質保証システム

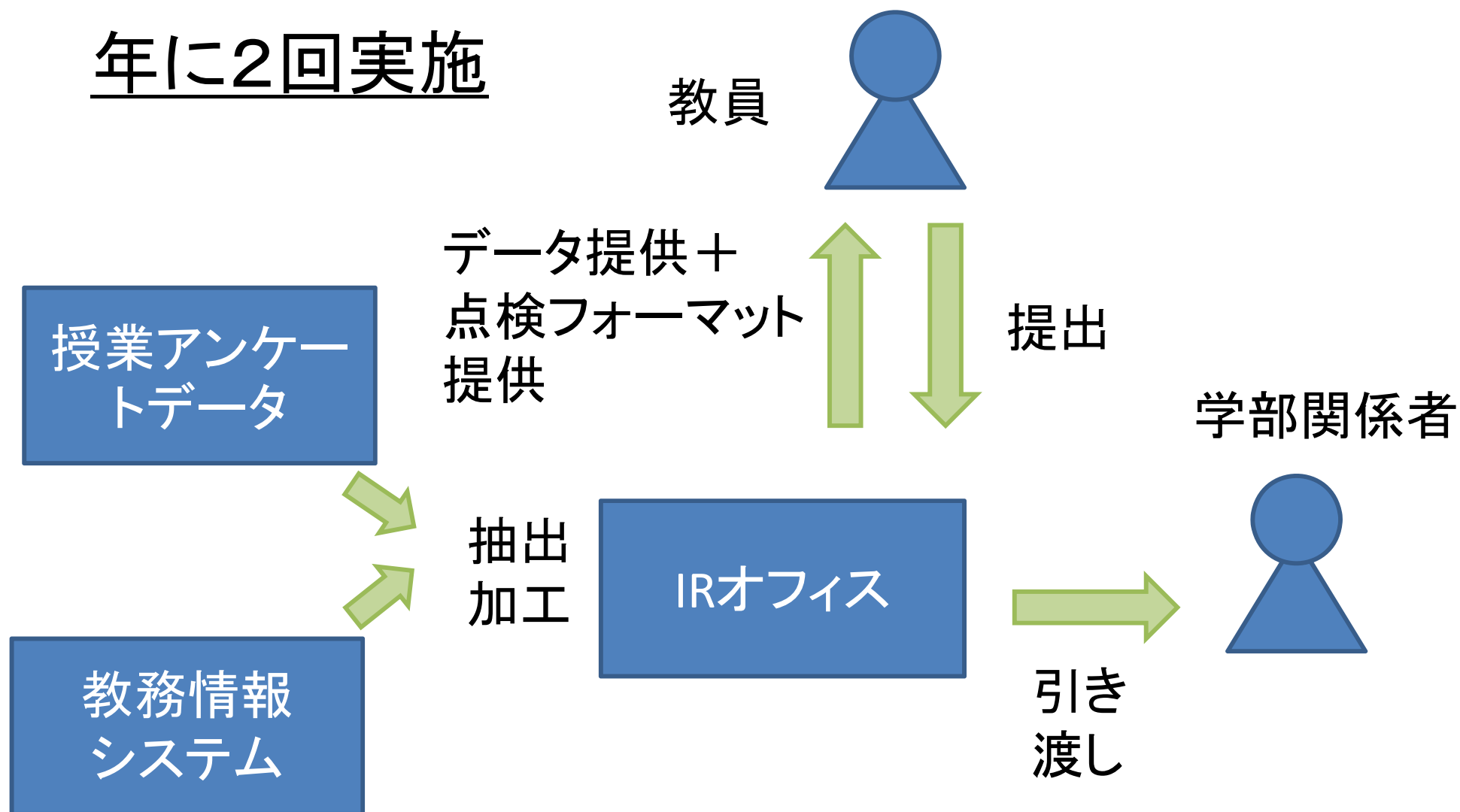


IRオフィスから提供している情報



授業点検の流れ

年に2回実施



授業点検の支援

https://db.ipc.ibaraki.ac.jp/... 教育改善情報提供シ...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(I) ヘルプ(H)

2. 専門教育

科目コード: **A8431** [この科目の自己評価を行う]

年度: 2014 開講: 前期 火・3限 単位数: 2 週あたりのコマ数: 1

授業名: 環境学

担当教員: 中石 真司

GPA: 2.28 平均点: 77.8 学習時間: 1h44m [データ修正]

受講人数 48

問9 この授業の内容を理解できましたか。[平均理解度: 58%]

有効回答 44

[授業アンケート結果]

茨城大学農学部 平成26年度後期専門科目「教員による授業評価」報告書

< 講義 >

氏名: 中石真司 授業科目名: 環境学 (1年・F/A8431)

項目	問題点や改善案等																
(1) 昨年度の授業を終えて、課題として残った点とその改善案																	
(2) 本年度授業の成績評価分布	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A+</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>欠試</th> <th>止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18.75%</td> <td>31.25%</td> <td>12.5%</td> <td>29.17%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>8.33%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	A+	A	B	C	D	E	欠試	止	18.75%	31.25%	12.5%	29.17%	0%	0%	8.33%	0%
A+	A	B	C	D	E	欠試	止										
18.75%	31.25%	12.5%	29.17%	0%	0%	8.33%	0%										
(3) 本年度授業アンケートでの「授業の理解度」に関する設問の結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>欠まそう思う(ほぼすべて理解)</th> <th>ややそう思う(3/4程度理解)</th> <th>どちらとも言いえない(半分程度理解)</th> <th>あまりそう思わない(1/4程度理解)</th> <th>全くそう思わない(ほとんど理解できず)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.36%</td> <td>20.45%</td> <td>56.82%</td> <td>11.36%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	欠まそう思う(ほぼすべて理解)	ややそう思う(3/4程度理解)	どちらとも言いえない(半分程度理解)	あまりそう思わない(1/4程度理解)	全くそう思わない(ほとんど理解できず)	11.36%	20.45%	56.82%	11.36%	0%						
欠まそう思う(ほぼすべて理解)	ややそう思う(3/4程度理解)	どちらとも言いえない(半分程度理解)	あまりそう思わない(1/4程度理解)	全くそう思わない(ほとんど理解できず)													
11.36%	20.45%	56.82%	11.36%	0%													
(4) 本年度授業アンケート結果の分析によって出てきた問題点、および改善案等で生まれた良かった点																	
(5) (4)の問題点について、来年度の授業での改善案																	
(6) その他の意見、カリキュラム等への提案																	
(7) 授業への積極的な参加や自発的な学習を促すように工夫されていたか?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>1 非常に工夫されていた</th> <th>2 良く工夫されていた</th> <th>3 多少工夫されていた</th> <th>4 あまり工夫されていないかった</th> <th>5 全く工夫されていないかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	1 非常に工夫されていた	2 良く工夫されていた	3 多少工夫されていた	4 あまり工夫されていないかった	5 全く工夫されていないかった	0	0	0	0	0						
1 非常に工夫されていた	2 良く工夫されていた	3 多少工夫されていた	4 あまり工夫されていないかった	5 全く工夫されていないかった													
0	0	0	0	0													

書き込む

https://db.ipc.ibaraki.ac.jp/... 教育... 農学... 農...

■ 農学部 授業アンケート 環境学 (1年)

・本アンケートについて、内容に関するお問い合わせは、点検評価委員会 中石先生(電話: 8599 メール: nakaishi@mx.ibaraki.ac.jp)まで、お願いします。

・表示がおかしいなどの不具合に関しては、評価室 為田(電話: 37-8572[企画課大学改革係と共用] メール: shimadat@mx.ibaraki.ac.jp)まで、お願いします。

問1 あなたはこの授業どのくらい出席しましたか。欠席した回数で答えてください。

有効回答 44

問2 あなたはこの授業を選択した動機は何ですか。(複数回答可)(他に動機があれば、表面に)

有効回答 46

問3 あなたはこの授業に対して、どの位予習や復習を行いましたか。(平均1:44)

有効回答 44

※3時間以上→3.5時間、2～3時間→2.5時間、1～2時間→1.5時間、1時間以下→45分、ほとんどしなかった→15分で換算。

教育プログラムごとの自己評価

- 教育目標を持つ最小単位(自律的な活動できる最小サイズ)を教育プログラムと仮に定義
- 年に2回以上のFDミーティングを推奨。
- 内容は、授業アンケート結果の振り返りや、成績と進路のデータによる教育プログラム単位での学習成果の把握と対応(改善)。
- 後者のためのデータ提供について説明したい。

用意するデータ

(必須データ)

- 学籍番号(もしくはそれに代わるキーコード)、1) 学期ごとのGPA、2) 進路などの現在の状況

(選択的データ)

- 性別、入試区分、在学月数、奨学金の有無、自宅・アパート等・寮など、部活・サークル、進路の産業分類コード

学期ごとのGPAの計算1

1) GPAデータが無ければ、生の成績データから計算する。

– 年度、学期のコードとGPさえあれば集計可

	A	B	C	D	F	G	H	
	学籍番号	年度	期	GP		2015	2015	2014などと続く
1	1501A	2015	a	2.5	学籍番号	a	b	
2	1501A	2015	a	3.2	1501A			
3	1502B	2015	b	0.5	1502B			
	以下続く				以下続く			

=averageifs (GP[平均対象],学籍番号,年度,期)

=averageifs(D2:D4,A2:A4,F3,B2:B4,G1,C2:C4,G2)

※countifsで科目数も計算しておく。

学期ごとのGPAの計算2

2) 6段階に区分して色分け

- 5科目未満の履修時には対象外

1	2	3	4	5	6	N
3.0-	2.5-3.0	2.0-2.5	1.5-2.0	1.0-1.5	0-1.0	対象外

学期ごとのGPA

	1a	1b	2a
1501a	2.33	2.43	3.05
1502b	1.58	1.12	1.33
1503c	2.22	3.95	3.55

学期ごと科目数

	1a	1b	2a
1501a	15	12	10
1502b	12	10	8
1503c	14	8	12

学籍番号 1501aの1年前期(1a)のGP区分 (GPAをB2セル、科目数はG2セルとする)

=IF(G2>5,IF(B2>=3,1,IF(B2>=2.5,2,IF(B2>=2,3,IF(B2>=1.5,4,IF(B2>=1,5,6))))), "N")


データの連結

- MS-Accessやスクリプトを書けば使えば一瞬だが、Excelでもvlookupなどで対応可能。

進路リスト

	A	B
1	学籍番号	進路
2	1501A	茨城建設
3	1502B	茨城テクノ
4	1503C	茨城県立高校
5	1504D	茨城大学大学院
6	1505E	無職
7	1506F	アルバイト

	D
	学籍番号
	1501A
	1502B

 =VLOOKUP(D2,A2:B7,2)

取扱注意

学科、コース、性別、入試区分、在学月数、
進路・現状、産業分類コード、
GPA、平均点、単位数、科目別合格率、
1年前期から5年後期までの学期GPA

効果？と課題

※個人の感想であり効果・効能を示すものではありません。

- 学生の氏名は伏せたまま、学部執行部の先生方に見せたり、学部FDで話したりしますが、学修課程と成果を捉えやすいのか、ウケはいいです。
- 学科やコースの先生らは、名前が伏せてあっても就職先と成績で誰かは特定できるようで、先生方が感じている成績の具合とデータは概ね一致する模様。
- 逆に言えば、関係者には就職先で学生が特定可能なので取り扱いには注意しなくてはならない。
- 大学院修了後だと6年前の入学生の情報となるため、やや古いというか、現行学生の指導に有効なのか、やや疑問も残る。

まとめ

- 教育改善のために、学生の動向を把握することは極めて重要。
- 高等教育の教員などの支援が期待できないIRとしては、既存のデータをうまくまとめて現場の教員が現状を把握したり、議論しやすいデータ(燃料)をいかに提供できるか、が鍵である。
- このような「場」の提供なども(余裕があれば)提案するのもよいかもしれない。
- 個人情報に関連で障害が予期される場合、クライアントにきちんと腹を括ってもらうのも重要。